

ディスレクシア語彙指導アプリ ことばのべんきょう 使用マニュアル

「スタート」を押す前に... 必ず「設定」を行きましょう！

- ・右上の「工具の絵」(①)を押して、設定画面に入ります。



最初の画面

- ・現在の児童名 (なまえの横の>を押して設定を行います。)

右上の「+」(②)を押すと児童を追加できます。

左上の「編集」(③)ボタンを押すと消去できます。

指導する児童を選んで「✓」をつけます。(図④)



現在の児童

以下の設定は児童ごとに個別に行います。

- ・問題の設定

▶よむ／よみ (ことばかるた) / いみ (ことばかるた) のそれぞれについて、指導する題材 (⑤) と 1 回あたりの問題数 (⑥) を設定します。

▶よみ (ことばかるた) / いみ (ことばかるた) では貯めたコインのリセットを行うことができます。

*リセットの使い方は、下の【ポイント③】を読んで下さい。

- ・背景色や正解音・不正解音のカスタマイズ、設定用のパスワードの作成 (児童が勝手に設定を変えないようにするため) ができます。



問題の設定

設定が終わったら、「戻る」で最初の画面に戻り「スタート」を押して指導を始めましょう。

「つくる」(語彙の学習) → 「よむ」(振り返り) → 「よみ」(ことばかるた) → 「いみ」(ことばかるた)の順に使うと良いでしょう。

<つくる>

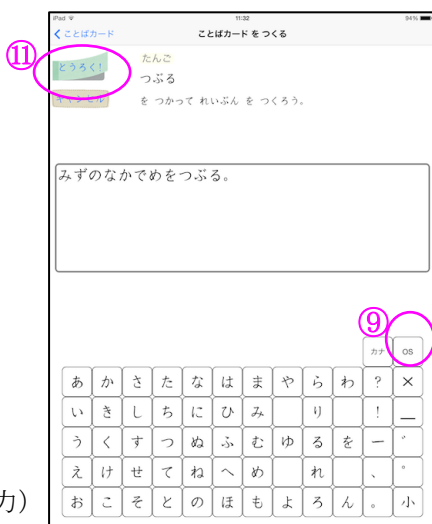
単語の意味や使い方の学習を行います。自分だけの“ことばカード”を作ります。

「だいたい」→「ことば」で指導する単語を選びます。

- ・「**🎵**」(⑧)を押すと、単語・意味・例文を音声で確認できます。語の意味が理解できたら、その単語を使った例文や語の意味を表す絵の作成を行います。
- ・「**れい2**」では平仮名を選んで入力します。「**OS**」(⑨)を押すと通常のキーボードに切り替わります。
- ・「**れい3**」は手書きで入力します。線の色、太さ、濃さを変えることができます(⑩)。鉛筆型のタッチペンを使うと書きやすいでしょう。「**れい2**」と「**れい3**」はどちらか使いやすい方を使いましょう。どちらも難しい場合は指導者の方が入力してあげましょう。



「ことばカード」(完成した状態)



「れい2」
(平仮名入力)



「れい3」
(手書き入力)

- ・「**じぶんのえ**」では、単語や作った例文の絵を書きます。使い方は「れい3」と同じです。
- ・それぞれ完成したら「**とうろく!**」(⑪)を押します。全て完成したら「**かんせい!**」(上図⑫)を押します。

【ポイント①】例文作りや絵を書く目的は、言葉のイメージを広げ、使える語彙にすることです。指導者の方は、字や絵を上手に書くことにはこだわらず、語の理解が広がるように声かけをしましょう。

<よむ>

作成したことばカードを振り返ることができます。選んだ題材の中で学習済みの単語（「つくる」で「かんせい！」の印をつけたもの）がランダムに出てきます。単語、例文、子ども自身の作った例文を子どもに読ませてみましょう。意味が不確実な時は、音声で確認しましょう。

【ポイント②】 出題数は最初に設定した数です。学習した全ての単語を振り返りたい時は多めに設定して下さい。ダミーの対象児を設定し、全ての単語に「かんせい！」の印をつけておけば、指導前に学習する単語を示したり、どの単語を知っているのかを把握したりするのに使えます。

<よみ（ことばかるた）>

読み（音声）を聞いて、文字で書かれた単語を選ぶ復習用教材です。

<いみ（ことばかるた）>

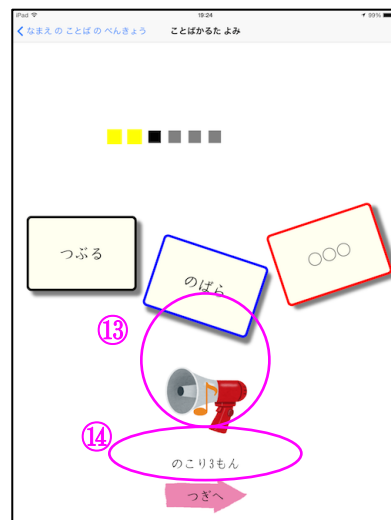
意味（音声）を聞いて、文字で書かれた単語を選ぶ復習用教材です。

使い方はどちらも同じです。

スピーカーの絵（⑬）を押すと音声が出るので正しい単語を選びます。

「つぎへ」の矢印（⑭）を押すと次の問題に進みます。

正答をした数だけコインが貯まります。



「ことばかるた」

問題は選んだ題材の学習済みの単語（「つくる」で「かんせい！」の印をつけたもの⑮）の中から、最初に設定した数だけ出ます。

「かんせい！」の印をつけたものが7つ以下の場合には選択肢の1つが「000」となります。



「ことばのせんたく」

【ポイント③】 コインは正答した数だけ貯まり、間違えても繰り返し挑戦すれば必ず増えるので、子どもの意欲を引き出しやすくなっています。貯まったコインは「設定」画面でリセットすることでゼロに戻すことができます。リセットは「題材の変わり目」「1週間毎」「目標に達成した時」など、指導者の判断で行って下さい。

指導後は以下の手順でアプリを完全終了させて下さい。



- ・「ホームボタン」を2回素早く押して、起動しているアプリを表示
- ・アプリ画面を上方向へ滑らせる



さいごに...

このアプリは補助教材です。基本的な使い方は以上ですが、指導者の方が工夫して使っていただいて構いません。学習は必ず指導者の方が一緒に行い、単語の意味や使い方への理解が深まるよう、声かけを行いましょう。